

CSRアクションプラン2018の結果

★★★ 達成 (90%以上) ★★☆☆ ほぼ達成 (80%以上) ★☆☆ 努力中 (60%以上) ☆☆☆ 未達 (60%未満)

Action Planアイコン	No	中期CSRアクションプラン2016-2018	CSRアクションプラン2018 結果	単年評価
 生命と健康を守る	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ●NK105第II相臨床試験を推進 ●バイオシミラーの開発は順調に進捗、トラスツマブBSを胃がんの適応症で上市、乳がんA法追加承認取得 ●ジェネリック抗がん薬テモゾロミドの再発・難治性のユーイング肉腫の追加承認取得、ジェネリック抗がん薬ゲフィチニブの製造販売承認取得 	★★★
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ●新型ディスクインフレータ、新型シリンドライナーは順調に販売を拡大、さらに多くの人々の安全に貢献するためグローバルでの生産に向けた準備を開始 ●将来に向けた新製品の開発に着手 	★★★
	3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ●取り組み中のコーポレート研究について、今後の方向性を経営陣と共有しながら推進 ●社内外技術を融合したコーポレート研究や、次世代育成研究を新たに推進 ●全社研究発表会、技術交流会、社内要素技術・共通技術の集約により、事業部・研究所間の技術交流を実施 	★★★
 豊かな暮らしを支える	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ●海外グループ会社での知的財産の管理体制を強化 ● 自社および他社特許を、特許評価指標を使用して分析し研究開発に活用 	★★☆☆
	5	市場環境や顧客ニーズに適合した農薬を提供し、安定した農業生産に寄与する	<ul style="list-style-type: none"> ●機能性材料事業で半導体・電子デバイス向けエポキシ樹脂が拡大、新規樹脂の開発が進展 ●色素材料事業で産業用印刷分野向けインクジェットプリンタ用色素が拡大 ●触媒事業で省エネ・省資源に貢献するアクリル酸やメタクリル酸製造用触媒が拡大 	★★★★
 持続可能な社会・環境に貢献する	6	サプライチェーンマネジメントを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●新規殺虫剤ファインセーブを2018年6月上市、さらに4作物3害虫に適用拡大し普及活動を推進 ●既存の殺虫剤リーガードで4作物2害虫に、展着剤フーモンおよびワイドコートで3作物群1作物に適用拡大 	★★★★
	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●サプライヤーと密にコミュニケーション、情報共有を図り、複数購買化による安定調達を推進 ●外部環境の変化により一部の原材料や部材で調達リスク・品質課題が顕在化 	★★☆☆
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する	<ul style="list-style-type: none"> ●重大顧客苦情の発生: 0件*1(前年度1件) ●重大品質工程異常の発生: 0件*1(前年度1件)、中小規模の品質工程異常の件数は目標未達 ●管理者及び実務者向けリスクマネジメント研修を実施、「なぜなぜ分析マニュアル英語版」を作成 	★★☆☆
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> ●機能化学品事業本部に品質保証本部を設置し、品質保証体制の強化を推進 ●セーフティシステムズ事業本部のグローバル品質保証体制の強化を推進、海外拠点の課題解決に向け取り組み中 	★★☆☆
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度中期環境目標の各項目のうち、ゼロエミッション率を除いて達成、2020年度までには全て達成できる見込み ●廃水処理技術向上を目指した全社プロジェクトを引き継ぎ、各事業場で廃水処理設備の運用・維持管理と運転条件の最適化を推進 	★★★★
 いい会社・強い会社になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う	<ul style="list-style-type: none"> ●事業場の地域住民と各種のコミュニケーションを継続実施 ●教育CSRとして地域の小学校へ出張授業を実施、イベント型実験教室「子ども化学実験ショー2018」へ参加 ●スポーツを通じた健康づくりへの取り組みとして卓球Tリーグを支援 	★★★★
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●財務・非財務情報を充実させた統合報告書を発行 ●機関投資家との継続した対話を実施 	★★★★
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する	<ul style="list-style-type: none"> ●女性管理職比率: 7.7%*2(対前年度比0.7ポイント増) ●グローバル人材の育成として海外ナショナルスタッフの本社ローテーション、海外語学留学プログラムを実施 ●ダイバーシティについてeラーニングを用いた教育研修を実施(セクハラ・パワハラ・LGBT等) 	★★★★
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ●男性育児休暇取得: 13名*2(対前年度比9名増)、従業員の子供を対象に本社見学会を開催 ●有給休暇取得率: 61.1%*2(対前年度比1.9ポイント増) ●時間外労働月平均: 13.3時間*2(対前年度比0.5時間増) 	★★☆☆
	15	有事においても事業継続性を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ●労働組合との「労働時間専門委員会」の開催による事業場ごとの実績管理と課題への対応策を検討 ●労働組合と「働き方に関する専門委員会」を新設 	★★★★
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	<ul style="list-style-type: none"> ●健康経営指標の一つである健康経営優良法人「ホワイト500」を取得 ●レスポンシブル・ケア(RC)方針に「健康経営」を取り込み全社健康イベント開催など具体的活動を推進 	★★★★
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●重大事故災害の発生: 0件*3(前年度1件) ●休業災害の発生: 3件*2(前年度9件) ●共通的に各事業場の診断ができるように「RC進捗確認表」を作成して運用を開始。また、各事業場で「RC進捗確認表」を意識したRC方針を策定 ●化学物質リスクアセスメントデータベースおよび職歴データベースの運用を開始 	★★☆☆
		成長する企業グループとして安定的な収益を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ●売上高1,726億円、営業利益199億円を確保し、配当による株主還元を継続的に実施 ●将来の成長に向けて160億円規模の設備投資、125億円規模の研究開発投資を実施 	★★★★
		有事においても事業継続性を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ●本社、各事業部及び中国各グループ会社のBCPマニュアルの見直しを実施 ● B C P訓練を本社中央災害対策本部と厚狭工場で実施 	★★★★
		グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	<ul style="list-style-type: none"> ●CSR研修: (国内)eラーニング研修5回のべ12,138名*2、集合研修13回のべ409名が受講 ●コンプライアンス研修: (国内)eラーニング研修2,416名*2、集合研修669名、DVD研修269名、計3,353名(海外)集合研修720名が受講 	★★★★
		グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●EU一般データ保護規則(GDPR)対応として、グループ会社間における欧州の個人データ移転に関する契約を締結 ●取締役会の実効性評価アンケートの集約を行い、改善3項目を抽出して運営を見直し、さらに2019年度取締役会に向けてアクションプランを策定 ●内部統制報告制度(J-SOX)全社的評価対象会社9社の評価を実施、問題事象の検出なし 	★★★★
			<ul style="list-style-type: none"> ●情報セキュリティ研修: eラーニング研修を毎月実施のべ24,224名*2が受講 ●従業員対象のセルフチェックを実施しセキュリティリテラシー向上度合いを確認 ●情報セキュリティに関する情報をグループ内で発信する社内ホームページを開設 	★★☆☆

※1: 損失金額1,000万円以上(日本化学単体の件数)
 ※2: 日本化学単体の数値
 ※3: 3人以上の同時休業災害または死亡災害(日本化学単体の件数)